

OXFORD



Oxford Day 2018

Global and Local Trends in Language Education

Partnership with Keio University,
Supported by British Embassy Tokyo

自治体の役割：英語教育改善のための意識改革

塚本裕之

静岡県総合教育センター

DOMI MINA

CONTENTS

自治体の役割：英語教育改善のための意識改革

- 1 CAN-DOリストの活用に向けての取組
- 2 共通参照枠に基づいた英語教育改善
 - ア 共通参照枠の意識化（静岡県が考えるCEFR）
 - イ 授業づくりの質的転換への意識化
- 3 まとめ

国際共通語としての英語力向上のための 5つの提言と具体的施策

～英語を学ぶ意欲と使う機会の充実を通じた
確かなコミュニケーション能力の育成に向けて～

平成23年 6 月
外国語能力の向上に関する検討会

「CAN-DOリスト」を作成する目的

- 指導方法や評価方法の工夫・改善が容易になる。
- すべての子どもたちの英語力の水準を向上させることができる。
- グローバル社会に通用するより高度な英語力の習得を目指すことが可能になる。
- 小・中・高が連携した英語教育の実現も可能になる。

〇〇高校 CAN-DOリストの形での学習到達目標

卒業時の目標	興味・関心のあることについてのニュースや文章のおおよその内容が理解できる。 英語を通じて、話し手や書き手の伝えたいことを理解できる。			
	話すこと(S)	書くこと(W)	聞くこと(L)	読むこと(R)
卒業時	S1 未来や過去の表現を用いて英語で積極的に会話ができる S2 英語による面接で適切に応答したり、自分の意見等伝えたいことを詳しく説明することができる	W1 提示された内容を基に長いスピーチやプレゼンテーションの段落のある文章を書くことができる。 W2 適切な文法を正確に英文を書くことができる。		
第2学年 終了時	S1 英語で簡単な会話を交わし、必要な情報を相手に尋ねたり、教えたりすることができる S2まとまった英語のスピーチができる	W1 自身の興味、関心に基づいて独自の英文を書くことができる W2 正しい文法（語法、時制など）を意識して英文を書くことができる	L1 定型表現を応用した教員の英語を聞いて理解することができる L2 英語の質問、日常会話を聞き取り、正確に理解することができる	R1 段落ごとの大意を把握しながら、複数の段落からなるまとまった文章を読むことができる R2 未習の単語の意味をある程度類推しながら読むことができる
第1学年 終了時	S1 ALTと簡単な日常会話ができる S2 身近なことに関して自分の意見や理由を簡単な英文で表現できる S3 リズム等音声的な特徴、速度、声の大きさなどに注意しながらスピーチ、会話を行うことができる	W1 文法を考慮し自己紹介や自分の意見を述べる英文を書くことができる	L1 定型表現や既習の単語を聞いて理解することができる L2 簡単な英語の質問、会話などを聞き取り、大意を把握することができる	R1 適切な発音、速度で教科書の本文を音読することができる R2 未習の単語、表現について辞書で調べながら教科書の本文の概要や要旨を捉えることができる

全ての公立高等学校で作成したが、なかなか活用されなかった

従来のCAN-DOリストの検証

4 技能バランスが取れていない

卒業時の目標	興味・関心のあることについての... 英語を通じて、話し手や書き手の伝えたいこと... ...理解することができる			
	話すこと(S)	書くこと(W)	聞くこと(L)	読むこと(R)
卒業時	<p>S1 未来や過去の表現を用いて英語で積極的に会話を行うことができる</p> <p>S2 英語による面接で適切に応答したり、自分の意見等伝えたいことを詳しく説明することができる</p>	<p>W1 提示された題材に合わせて長いスピーチ、プレゼンテーション原稿など段落のある文章を書くことができる。</p> <p>W2 適切な文法に則り、正確に英文を書くことができる。</p>	<p>L1 日常生活や学習の場面で、様々な場面や状況に合わせた英語を聞き取ることができる。</p>	<p>R1 教科書の本文や、新聞記事、ウェブサイトなど、様々な英語の読み物を読み取ることができる。</p>
第2学年終了時	<p>S2 まとまった英語のスピーチができる</p>	<p>W1 文法を考慮し自己紹介や自分の意見を述べることができる</p>	<p>L1 定型表現や既習の単語を聞いて理解することができる</p> <p>L2 簡単な英語の質問、会話などを聞き取り、大意を把握することができる</p>	<p>R1 適切な発音、速度で教科書の本文を音読することができる</p> <p>R2 未習の単語、表現について辞書で調べながら教科書の本文の概要や要旨を捉えることができる</p>
第1学年終了時	<p>S1 AITと簡単な日常会話を行うことができる</p> <p>S2 身近な話題について自分の意見や感想を簡単な英文で表現することができる</p> <p>S3 リズム、イントネーション、声調などに注意しながらスピーチ、会話を行うことができる</p>	<p>W1 文法を考慮し自己紹介や自分の意見を述べることができる</p>	<p>L1 定型表現や既習の単語を聞いて理解することができる</p> <p>L2 簡単な英語の質問、会話などを聞き取り、大意を把握することができる</p>	<p>R1 適切な発音、速度で教科書の本文を音読することができる</p> <p>R2 未習の単語、表現について辞書で調べながら教科書の本文の概要や要旨を捉えることができる</p>

【問題点】
ディスクリプターを適切に配置するための尺度がない

目標設定レベル（難易度）が不明確

例) 「教科書の本文」とあるが教科書のレベルが不明確
(難しい教科書を選ぶ傾向がある)

学年間の差が大きい
重なりがある

ディスクリプターを適切に配置するための尺度

「各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定のための手引き」

(学年ごとの学習到達目標の設定)

卒業時の学習到達目標を達成するため、各学年段階における指導や評価に資するよう、学習指導要領の外国語科及び外国語科の各科目の目標に基づく学年ごとの目標として、4技能を用いて「～することができる」という形（「CAN-DO リスト」の形）で設定することが望ましい。その際、例えば、能力記述文の書き方や各目標の難易度に基づいた配置について、全体的な能力発達段階を示している「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠（CEFR）」やCEFRを踏まえた国内における取組、外部検定試験の実施団体が開発した「CAN-DO リスト」等を参照することが可能である。既存の取組を参照するなどにより、学年の進行に応じて学習到達目標も生徒の発達段階に応じたものとなるように作成することが重要である。

従来のCAN-DOリストの検証

4 技能バランスが取れていない

卒業時の目標	興味・関心のあることについての... 英語を通じて、話し手や書き手の伝えたいこと... ...理解することができる。			
	話すこと(S)	書くこと(W)	聞くこと(L)	読むこと(R)
B1	S1 未来や過去の表現を用いて英語で積極的に会話をすることができる S2 英語による面接で適切に応答したり、自分の意見等伝えたいことを詳しく説明することができる	W1 提示された題材に合わせ長いスピーチ、プレゼンテーション原稿など段落のある文章を書くことができる。 W2 適切な文法に則り、正確に英文を書くことができる	L1 日常生活の英語での会話、アナウンス放送など、様々な話題の、まとまった英語を理解することができる。	R1 授業で扱った表現が含まれた初見の英語の文書を読み、要旨や詳細な部分についても正確に理解することができる
第2学年 終了時	S2 まとまった英語のスピーチができる	W1 文法を考慮し自己紹介や自分の意見を述べる... (語法時制など)を意識して英文を書くことができる	L1 定型表現や既習の単語を聞いて理解することができる L2 簡単な英語の質問、会話を把握することができる	R1 適切な発音、速度で教科書の本文を音読することができる R2 未習の単語、表現に教科書の本文の概要や要旨を捉えることができる
第1学年 終了時	S1 AITと簡単な日常会話... S2 身近な...自分の意見や...	W1 文法を考慮し自己紹介や自分の意見を述べる... ...ことができる	L1 定型表現や既習の単語を聞いて理解することができる L2 簡単な英語の質問、会話を把握することができる	R1 適切な発音、速度で教科書の本文を音読することができる R2 未習の単語、表現に教科書の本文の概要や要旨を捉えることができる
A1	S3 リズム、声調、速度、声の強弱などに注意しながらスピーチ、会話を行うことができる			

目標設定レベル(難易度)が不明確

例) 「教科書の本文」とあるが教科書のレベルが不明確
(難しい教科書を選ぶ傾向がある)

学年間の差が大きい


重なりがある

B1

A2

A1

〇〇高校 CAN-DOリストの形での学習到達目標

卒業時の目標	興味・関心のあることについてのニュースや文章のおおよその内容が理解できる。 英語を通じて、話し手や書き手の伝えたいことを的確に理解することができる。			
	話すこと(S)	書くこと(W)	聞くこと(L)	
卒業時	S1 未来や過去の表現を用いて英語で積極的に会話ができる S2 英語による面接で適切に応答したり、自分の意見等伝えたいことを詳しく説明することができる	W1 提示された題材に合わせて長いスピーチ、プレゼンテーション原稿など段落のある文章を書くことができる。 W2 適切な文法に則り、正確に英文を書くことができる。	L1 日常生活の英語での会話、アナウンス放送など、様々な話題の、まとまった英語を理解することができる。	 視が の文 細な 部 に理 解する こと できる
第2学年 終了時	S1 英語で簡単な会話を交わし、必要な情報を相手に尋ねたり、教えたりすることができる S2まとまった英語のスピーチができる	W1 自身の興味、関心に基づいて独自の英文を書くことができる W2 正しい文法（語法、時制など）を意識して英文を書くことができる	L1 定型表現を応用した教員の英語を聞いて理解することができる L2 英語の質問、日常会話を聞き取り、正確に理解することができる	R1 段落ごとの大意を把握しながら、複数の段落からなるまとまった文章を読むことができる R2 未習の単語の意味をある程度類推しながら読むことができる
第1学年 終了時	S1 ALTと簡単な日常会話ができる S2 身近なことに関して自分の意見や理由を簡単な英文で表現できる S3 リズム等音声的な特徴、速度、声の大きさなどに注意しながらスピーチ、会話を行うことができる	W1 文法を考慮し自己紹介や自分の意見を述べる英文を書くことができる	L1 定型表現や既習の単語を聞いて理解することができる L2 簡単な英語の質問、会話などを聞き取り、大意を把握することができる	R1 適切な発音、速度で教科書の本文を音読することができる R2 未習の単語、表現について辞書で調べながら教科書の本文の概要や要旨を捉えることができる

1 CAN-DOリストの活用に向けての取組

様式1 学校番号() 静岡県立/〇〇市立/〇〇〇高等学校 平成29年度 学習到達目標(CAN-DOリスト)

CEFR ステージ	聞くこと(Listening)	読むこと(Reading)	話すこと(Speaking)		書くこと(Writing)	想定 時期	達成率		
			発表(Spoken Production)	やりとり(Spoken Interaction)			内部	外部	
B2	<ul style="list-style-type: none"> ○母語話者同士による多様な話題の長い会話概要や要点を理解することができる。 ○身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、話の展開を理解することができる。 ○自然な速さで話される時事問題や社会問題に関する長い説明を聞いて、概要や要点を理解することができる。 ○ある程度知識のある社会問題や時事問題に関するラジオ番組やテレビ番組を視聴して、概要や要点を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関心のある分野の記事や資料から、必要な情報を読み取ることができる。 ○興味のある現代小説や随筆を読んで、概要を理解することができる。 ○時事問題や社会問題に関する記事やレポート、資料を読んで、概要や要点、筆者の姿勢や視点を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幅広い話題について、即興で、説明したり自分の考えや気持ちなどを話したりすることができる。 ○幅広い分野のテーマについて、明瞭かつ詳細な説明をすることができる。 ○多様な考え方ができる時事問題や社会問題について、様々な見方の長所・短所を示すと共に、自分の意見を幅広い表現を用いて論理的に説明することができる。 ○聴衆の反応に応じて、発表の内容や方法を調整することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幅広い話題に関する会話に参加し情報や自分の意見などを適切かつ流暢に表現することができる。 ○知識のある時事問題や社会問題について、幅広い表現を用いて議論することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関心のある分野のテーマについて、事実や情報などを明確且つ詳細に伝えることができる。 ○時事問題や社会問題に関する記事や資料を読んで、概要や要点をまとめておくことができる。 ○時事問題や社会問題について、得た情報をもとに理由を論理的に説明することができる。 ○Eメール、インターネットなど、その用途に合った表現を用いて書くことができる。 				
StageO							%	%	
StageO							%	%	
StageO							%	%	
B1	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができる。 ○比較的ゆっくりはっきりと話されれば、時事問題や社会問題に関する短い平易な説明を聞いて、要点を理解することができる。 ○比較的ゆっくりはっきりと話されれば、興味のある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して、要点を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題に関する比較的短い記事やレポート資料から、必要な情報を読み取ることができる。 ○短い物語を読んで、あらすじを理解することができる。 ○社会的な話題に関する短い会話や説明を読んで、概要や要点を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題や関心のある事柄について、即興で説明することができる。 ○身近な話題や関心のある事柄について、まとまりのある内容を話すことができる。 ○関心のある分野のテーマに関する記事やレポート資料の概要や要点を説明することができる。 ○知識のある時事問題や社会問題について、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公共の場所(店、駅など)において、自分の問題を説明し、解決することができる。 ○身近な話題や興味関心のある事柄について、準備をしないで会話に参加することができる。 ○身近な話題や興味関心のある事柄について、準備をしないで会話に参加することができる。 ○身近な話題や知識のある話題について、簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の経験や身近な事柄について、複数のパラグラフから成る説明文を書くことができる。 ○関心のある分野のテーマに関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができる。 ○関心のある分野のテーマについて、まとまりのある文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書くことができる。 				
StageO							%	%	
StageO							%	%	
StageO							%	%	
A2	<ul style="list-style-type: none"> ○短い簡単なメッセージや短い説明を聞いて、必要な情報を読み取ることができる。 ○身近な話題に関する短い説明を聞いて、概要や要点を理解することができる。 ○ゆっくりはっきりと話されれば、身の回りの事柄に関する短い説明を聞いて、概要や要点を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで、視覚情報などを参考にしながら、あらすじを理解することができる。 ○身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、視覚情報などを参考にしながら、概要を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な英語で書かれたごく短い物語や出来事について、事実や自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて短く話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手のサポート(ゆっくり話す、繰り返し返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をたしてくれるなど)があれば、ごく身近な話題について、簡単な表現を使って質疑応答をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な表現を用いて書くことができる。 				
StageO							%	%	
StageO							%	%	
StageO							%	%	
A1	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶や簡単な指示を理解することができる。 ○日常生活において必要な情報を聞き取ることができる。 ○ゆっくりはっきりと話されれば、身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話や説明を、視覚情報などを参考にしながら理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで、視覚情報などを参考にしながら、あらすじを理解することができる。 ○身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、視覚情報などを参考にしながら、概要を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な英語で書かれたごく短い物語や出来事について、事実や自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて短く話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手のサポート(ゆっくり話す、繰り返し返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をたしてくれるなど)があれば、ごく身近な話題について、簡単な表現を使って質疑応答をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な表現を用いて書くことができる。 				
StageO							%	%	
StageO							%	%	
StageO							%	%	



★県内全ての公立高等学校(平成27年度より)
CEFRに準拠したCAN-DOリスト
を作成・提出

静岡県高等学校外国語科 「CAN-DOリスト」作成の手引き

平成28年12月

静岡県高等学校外国語科「CAN-DOリスト」作成の手引き

静岡県総合教育センター
総合支援課 高校班

平成23年6月に「外国語能力の向上に関する検討会」（平成22年11月5日初等中等教育局長決定）がとりまとめた「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的な施策」において、各中・高等学校が学習指導要領に基づき、生徒に求められる英語力を達成するための学習到達目標を「CAN-DOリスト」の形で具体的に設定することが提言されました。

本県においても、県内全ての公立高等学校において、「CAN-DOリスト」の形の学習到達目標を設定し、その活用に取り組んでまいりましたが、作成されたCAN-DOリストが実際の指導に十分には生かされていない現状が見受けられます。そこで、CAN-DOリストの様式を改善し、活用の促進を図ることとしました。

1 主な変更点

- 指導する領域について、CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) に準拠するよう、「話すこと」を「発表」「やりとり」の2つに分け、全5領域とした。
- 学習到達目標について、「学年ごとの設定」から、「CEFRレベルによる設定」へと変更した。
- 各レベルに到達するまでの段階を、「ステージ」として設定し、各ステージの終了時期を「想定時期」として示すこととした。
- 各レベルには「CEFR準拠の能力記述文」を、各ステージには「具体的な学習活動」を、記載することとした。
- 設定した学習到達目標の達成状況を把握するため、各ステージ終了時における「達成率」を記載する欄を設けた。

※補足事項

- について、卒業時に到達することを指すレベルは学校が決定する。ここで言う「到達」とは、当該学年の生徒の6割が目標を達成することを指す。
学科やコースにより目標とするレベルが異なる場合は、該当する生徒の数が最も多い学科又はコースについて記載する。
- について、ステージ数は学校が決定する。ただし、各学年2ステージ以上、卒業まで6ステージ以上に区切ることをとする。
- について、具体的な学習活動は、実際に使用する教材を選び、その教材を用いて授業中に行う「5領域育成のための学習活動」を、具体的に記載する。
- の「達成率」について、学校で実施するパフォーマンステストの評価により教員が判断する「内部」、外部検定試験等の外部指標による「外部」のそれぞれを記載できるようにしてある。

2 作成の手順

【手順1】

生徒の実態に合わせて、高等学校卒業段階で求めるレベル（3年間で身に付けさせたい力）を、「参考」CEFRレベルの概要」等を参照しながら、CEFRのレベルで設定する。必修教科目でCEFRのA2レベルに到達することを基本とする。

【手順2】※以下、様式1(Exce1)にある「様式1(サンプル解説)」を参照する。

設定した目標レベルに達するまでの「ステージ数」と「想定時期」を決定する。

【手順3】

次の3つの作成方法から1つを選ぶ。

- 様式1による作成
能力記述文は入力されているので、具体的な学習活動のみ作成し、記入する。
- 様式2による作成
能力記述文及び具体的な学習活動を各学校で作成する。
- 任意の様式で作成
様式、能力記述文及び具体的な学習活動を作成する。

【手順4】

- の場合、能力記述文に記載されている能力を身に付けるために実際に行う学習活動を、学校教育目標、年間指導計画、教科書等の教材を踏まえて作成し、様式1の所定の欄に生徒にわかりやすい形で記入する。
- の場合、様式1を参考にしながら能力記述文を作成し、様式2の所定の欄に記入する。学習活動については、①と同様とする。
- の場合、CEFRに準拠した能力記述文を作成し、任意の様式に記入する。学習活動については、①と同様とする。

【手順5】

下記「CAN-DOリスト提出前チェックリスト」により、必要な要件をすべて満たしているか確認する。

< CAN-DOリスト提出前チェックリスト >

- 能力記述文について、記載されている能力がCEFRのどのレベルに該当するかわかるように表記されている。
- 必修教科目について、CEFRのA2レベルを達成することが想定されている。
- 学習活動について、能力記述文に記載されている能力を身に付けるために適したのものとなっている。
- 学習活動について、具体的な内容が、生徒にわかりやすい形で明記されている。
- 設定した目標の達成度を把握するための評価時期が、「想定時期」として最低年2回分（前期・後期）明記されている。
- 設定した目標の達成度を記入する欄が設けられている。
- 外部検定試験等の外部指標による達成度を記入する欄が設けられている。

3 提出後の活用方法

- ・様式1及び2の「学習活動」には、授業で実際に行った学習活動を随時追記していく。
- ・「達成率」（内部）については、各ステージの適切な時期に、適切な課題（「参考」CEFRレベルの概要」にある「評価規準となる問いの具体例」等を参照）でパフォーマンステストを行い、適切なルーブリックで評価して把握し、記入していく。
- ・把握した「達成率」を踏まえ、必要に応じてCAN-DOリスト（レベルの妥当性、ステージ設定等）を見直す。

サンプル・注意点

様式1

学校番号() 特別国立/〇〇市立/〇〇〇高校学校 平成30年度版 学習到達目標(CAN-DOリスト)

学年	単元	読むこと(Reading)	話すこと(Speaking)		書くこと(Writing)	語彙知識	文法知識
			聴き取り(Listening)	発話(Speaking Production)			
B1	スピーチ	「読むレベルは適宜調整して注釈を付し、必要に応じて音読を促すこととする。」	「聴き取りの目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「聴き取りの目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」
	Stage 1	「読むレベルは適宜調整して注釈を付し、必要に応じて音読を促すこととする。」	「聴き取りの目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「聴き取りの目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」
	Stage 2	「読むレベルは適宜調整して注釈を付し、必要に応じて音読を促すこととする。」	「聴き取りの目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「聴き取りの目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」
A2	スピーチ	「読むレベルは適宜調整して注釈を付し、必要に応じて音読を促すこととする。」	「聴き取りの目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「聴き取りの目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」
	Stage 1	「読むレベルは適宜調整して注釈を付し、必要に応じて音読を促すこととする。」	「聴き取りの目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「聴き取りの目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」
	Stage 2	「読むレベルは適宜調整して注釈を付し、必要に応じて音読を促すこととする。」	「聴き取りの目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「聴き取りの目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」
A1	スピーチ	「読むレベルは適宜調整して注釈を付し、必要に応じて音読を促すこととする。」	「聴き取りの目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「聴き取りの目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」
	Stage 1	「読むレベルは適宜調整して注釈を付し、必要に応じて音読を促すこととする。」	「聴き取りの目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「聴き取りの目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」
	Stage 2	「読むレベルは適宜調整して注釈を付し、必要に応じて音読を促すこととする。」	「聴き取りの目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「聴き取りの目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」	「発話の目的に応じて適切な音読の回数や速度を指導することとする。」

「読むレベルは適宜調整して注釈を付し、必要に応じて音読を促すこととする。」

「読むレベル内では、言語の習得能力は各ステージが共通です。ここでは、A2レベルに達するに必要となる読解・聴解技能を要すると思われ、このステージで習得した。」

「想定時間とは」読む生徒のレベルが目標を達成すると思える時間。ただし、卒業時の学習到達目標の達成は最終手段ではない。

達成率(内訳)は、各ステージの適切な時期に、適切な目標(参考)の達成率の範囲にある目標達成率となる。異なる見解(例)を参照して、ターゲットを設定し、記入する。

主たる学習期間 Goal Activity

「進捗」に関して、主たる学習期間であるGoal Activity/Goal Taskと各単元の学習期間との関連付けを行う。目標を達成した(達成した)。

「スピーチ」は最終目標とは、この卒業年と進んで区別せず、ここでは、最終目標で区別しています。進捗の算出に合わせて、適宜調整して下さい。

「1時間の授業」において、100%の学習目標を達成する場合は必ず学習成果を認めるために、20%以上の達成率の計化学習成果を認めます。例「同じこと」について「話す」、「読んだこと」について「書く」

「スピーチ」は最終目標とは、この卒業年と進んで区別せず、ここでは、最終目標で区別しています。

「達成率(内訳)」は、各ステージの適切な時期に、適切な目標(参考)の達成率の範囲にある目標達成率となる。異なる見解(例)を参照して、ターゲットを設定し、記入する。

達成率(内訳)

CAN-DOリスト(学習到達目標)

様式1
学校番号() 静岡県立/〇〇市立/〇〇〇

CEFR ステージ	聞くこと(Listening)	読むこと(Reading)	書くこと(Writing)	話すこと(Speaking)	達成率	達成率				
						内部	外部			
B1	○ 音読や聴き取りの目的に応じて、聞き取りの要する情報を理解することができる。	○ 身近な話題に関する短い文章の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	3年後期	%	%			
	○ 音読や聴き取りの目的に応じて、聞き取りの要する情報を理解することができる。	○ 身近な話題に関する短い文章の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。				3年前期	%	%
	○ 音読や聴き取りの目的に応じて、聞き取りの要する情報を理解することができる。	○ 身近な話題に関する短い文章の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。						
Stage7	○ 音読や聴き取りの目的に応じて、聞き取りの要する情報を理解することができる。	○ 身近な話題に関する短い文章の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	3年後期	%	%			
Stage6	○ 音読や聴き取りの目的に応じて、聞き取りの要する情報を理解することができる。	○ 身近な話題に関する短い文章の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	3年前期	%	%			
A2	○ 音読や聴き取りの目的に応じて、聞き取りの要する情報を理解することができる。	○ 身近な話題に関する短い文章の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	2年後期	%	%			
	○ 音読や聴き取りの目的に応じて、聞き取りの要する情報を理解することができる。	○ 身近な話題に関する短い文章の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。				2年前期	%	%
	○ 音読や聴き取りの目的に応じて、聞き取りの要する情報を理解することができる。	○ 身近な話題に関する短い文章の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。						
Stage5	○ 音読や聴き取りの目的に応じて、聞き取りの要する情報を理解することができる。	○ 身近な話題に関する短い文章の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	2年後期	%	%			
Stage4	○ 音読や聴き取りの目的に応じて、聞き取りの要する情報を理解することができる。	○ 身近な話題に関する短い文章の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	2年前期	%	%			
Stage3	○ 音読や聴き取りの目的に応じて、聞き取りの要する情報を理解することができる。	○ 身近な話題に関する短い文章の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	1年後期	%	%			
A1	○ 音読や聴き取りの目的に応じて、聞き取りの要する情報を理解することができる。	○ 身近な話題に関する短い文章の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	1年後期	%	%			
	○ 音読や聴き取りの目的に応じて、聞き取りの要する情報を理解することができる。	○ 身近な話題に関する短い文章の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。				1年前期	%	%
	○ 音読や聴き取りの目的に応じて、聞き取りの要する情報を理解することができる。	○ 身近な話題に関する短い文章の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。						
Stage2	○ 音読や聴き取りの目的に応じて、聞き取りの要する情報を理解することができる。	○ 身近な話題に関する短い文章の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	1年後期	%	%			
Stage1	○ 音読や聴き取りの目的に応じて、聞き取りの要する情報を理解することができる。	○ 身近な話題に関する短い文章の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	○ 簡単な文章や短文の概要を把握することができる。	1年前期	%	%			

卒業までにどのCEFRレベルまでの到達を目指すかを各学校で明示する

3年

2年

1年

「達成率」をパフォーマンス評価で測り記入する

CAN-DOリスト(学習到達目標)

様式1
学校番号() 静岡県立/〇〇市立/〇〇〇高等学校 平成29年度 学習到達目標(CAN-DOリスト)

CEFR ステージ	聞くこと(Listening)	読むこと(Reading)	話すこと(Speaking)		書くこと(Writing)	想定時期	達成率	
			発表(Spoken Production)	やりとり(Spoken Interaction)			内部	外部
B1	上段							
Stage7						3年後期	%	%
Stage6						3年前期	%	
A2	上段							
Stage5						2年後期	%	%
Stage4						2年前期	%	
Stage3						1年後期	%	%
A1	上段							
Stage2						1年後期		
Stage1						1年前期	%	

CAN-DOディスクリプタ
(CEFR準拠・県統一)

To-DOディスクリプタ
(学校独自)

上段

中教審答申別添資料

「外国語」等における小・中・高等学校を通じた国の領域別の目標（イメージ）たたき台

別添13-3

校種	CEFR レベル	聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
高等学校	B2	<ul style="list-style-type: none"> 多様な語彙による多様な話題の長い会話を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。 身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、話の展開を理解できるようにする。 自然な速さで読まれる時事問題や社会問題に関する長い説明を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。 ある程度知識のある社会問題や時事問題に関するラジオ番組やテレビ番組を視聴して、概要や要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 関心のある分野の記事や資料から、必要情報を読み取ることができるようにする。 興味のある現代小説や随筆を読んで、概観することができるようにする。 時事問題や社会問題に関する記事や資料を読み、概要や要点、筆者の立場を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い話題に関する会話に参加し、話題や自分の意見などを適切な状況に表現することができるようにする。 幅広い分野のテーマについて、明確かつ詳細な説明をすることができるようにする。 多様な考え方ができる時事問題や社会問題について、意見を述べることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い話題について、即興で、説明したり自分の考えや気持ちなどを話したりすることができるようにする。 幅広い分野のテーマについて、明確かつ詳細な説明をすることができるようにする。 多様な考え方ができる時事問題や社会問題について、意見を述べることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 関心のある分野のテーマについて、事実や情報などを明確且つ詳細に伝える説明文を書くことができるようにする。 時事問題や社会問題など幅広い話題に関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書きまとめることができるようにする。
	B1	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。 比較的ゆっくりはっきりと読まれたら、時事問題や社会問題に関する短い平易な説明を聞いて、要点を理解することができるようにする。 比較的ゆっくりはっきりと読まれたら、馴染みのある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して、要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い平易な説明を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。 比較的ゆっくりはっきりと読まれたら、馴染みのある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して、要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や自分に関連した事柄に関する短い簡単なやり取りをすることができるようにする。 身近な話題や興味関心のある事柄について、ある程度準備をすれば、会話に参加することができるようにする。 身近な話題について、簡単な英語を用いて簡単な意見交換をすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。 身近な話題や関心のある事柄について、簡単な説明をすることができるようにする。 身近な話題について、自分の意見やその理由を簡単に話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が必要とする事柄について、短い簡単なメモやメッセージなどを書くことができるようにする。 身近な事柄について、簡単な語句や表現を用いて、短い説明文を書くことができるようにする。 開いたまま読んだりした内容について、簡単な語句や表現を用いて、自分の意見や感想を書くことができるようにする。
中学校	A2	<ul style="list-style-type: none"> 短い簡単なメッセージやアナウンスを聞いて、必要な情報を聞き取ることができるようにする。 身近な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。 ゆっくりはっきりと読まれたら、身近な事柄に関する短い説明の要点を理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活において身の回りがある平易なテキストから、必要な情報を読み取ることができるようにする。 平易な英語で書かれた短い物語を読んで、あらすじを理解できるようにする。 身近な話題に関して平易な英語で書かれた短い説明や手紙を読んで、概要や要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や自分に関連した事柄に関する短い簡単なやり取りをすることができるようにする。 身近な話題や興味関心のある事柄について、ある程度準備をすれば、会話に参加することができるようにする。 身近な話題について、簡単な英語を用いて簡単な意見交換をすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。 身近な話題や関心のある事柄について、簡単な説明をすることができるようにする。 身近な話題について、自分の意見やその理由を簡単に話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が必要とする事柄について、短い簡単なメモやメッセージなどを書くことができるようにする。 身近な事柄について、簡単な語句や表現を用いて、短い説明文を書くことができるようにする。 開いたまま読んだりした内容について、簡単な語句や表現を用いて、自分の意見や感想を書くことができるようにする。
	A1	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。 日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取ることができるようにする。 ゆっくりはっきりと読まれたら、身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話を聞いて、視覚情報などを参考にしながら理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活において身の回りがある英語の中の語句や単純な文を理解できるようにする。 平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで、視覚情報などを参考にしながら、あらすじを理解することができるようにする。 身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、視覚情報などを参考にしながら、概要を理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の発話を理解できない場合など、必要に応じて、聞き返したり意味を確認したりすることができるようにする。 相手のサポート(ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助けが必要であることを伝える)があれば、ごく身近な話題について、簡単な表現を使って質問応答をすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な語句や文を用いて、自分について話すことができるようにする。 日常生活において必要となる基本的な情報を伝えることができるようにする。 ごく身近な事柄や出来事について、事実、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分に関するごく限られた情報を、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。 自分が必要とする事柄について、短い簡単なメモやメッセージなどを書くことができるようにする。 身近な事柄について、簡単な語句や表現を用いて、短い説明文を書くことができるようにする。 開いたまま読んだりした内容について、簡単な語句や表現を用いて、自分の意見や感想を書くことができるようにする。
小学校	(Pre-A1)	<ul style="list-style-type: none"> アルファベットの発音を聞いて、どの文字であるか分かるようにする。 挨拶や短いごく簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。 ゆっくりはっきりと、繰り返して読まれたら、自分に関することや身近で具体的な事柄を表現するごく簡単な語句や文を聞き取ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ごく身近にあるアルファベットの文字を識別し、発音することができるようにする。 音声で十分に慣れ親しんだ、ごく身近で具体的な事柄を表現する簡単な文を見て、その意味を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶やごく短い簡単な指示に応答することができるようにする。 相手のサポート(ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助けが必要であることを伝える)があれば、自分に関することについてごく簡単な質問に答えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 定型表現を用いて、簡単な挨拶をすることができるようにする。 自分や身の回りの物事に関するごく限られたことについて、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的を持ってアルファベットの大大字と小文字を正確に書くことができるようにする。 読文を参考にしながら、音声などで十分慣れ親しんだ語句や文を書くことができるようにする。

上段：国がたたき台として示したディスクリプタを使用 (各学校で作るのではなく固定)

複数の力を統合的に振う言語活動を通して求められる英語力を身に付ける

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、2014年以降の研究を経て、2001年に欧州評議会 (Council of Europe) が発表。

1 CAN-DOリストの活用に向けての取組

縦軸を
CEFRにする

新

様式1 学校番号() 静岡県立()市立()高等学校 平成28年度 学習到達目標(CAN-DOリスト)

CEFR	聞くこと(Listening)	読むこと(Reading)	話すこと(Speaking)	書くこと(Writing)	想定 時期	達成率	
						内部	外部
B2	○ 話者同士による多様なやり取りの中で、概要や要点を理解することができる。 ○ 身近な話題に関する複文の展開を理解することができる。 ○ 自然な速さで話され、聞き取りやすい長めの説明や解説を聞き取ることができる。 ○ 多様な視点のある社会的な話題やラジオ番組やテレビ番組を視聴して、概要や要点を理解することができる。	○ 身近な話題に関する比較的短い記事やレポート資料から、必要な情報を読み取ることができる。 ○ 短い物語を読んで、あらすじを理解することができる。 ○ 社会的な話題に関する短い会話や説明を読んで、概要や要点を理解できる。 ○ 英語学習を目的として書かれた記事やレポートを読んで、概要や要点を理解できる。	○ 幅広い話題に関する会話に参加し情報や自分の意見などを適切かつ流暢に表現することができる。 ○ 知識のある時事問題や社会問題について、幅広い表現を用いて議論することができる。	○ 関心のある分野のテーマについて、事実や情報などを明確且つ詳細に伝えることができる。 ○ 時事問題や社会問題に関する記事や資料を読み取ってまとめることができる。 ○ 時事問題や社会問題について、得た情報やその理由を論理的に述べることができる。 ○ Eメール、ウェブサイトの用字に含める。			
StageO						%	%
StageO						%	%
StageO						%	%
B1	○ 身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができる。 ○ 比較的ゆっくりはっきりと話されれば、時事問題や社会問題に関する短い平易な説明を聞いて、要点を理解することができる。 ○ 比較的ゆっくりはっきりと話されれば、馴染みのある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して、要点を理解できる。	○ 身近な話題に関する比較的短い記事やレポート資料から、必要な情報を読み取ることができる。 ○ 短い物語を読んで、あらすじを理解することができる。 ○ 社会的な話題に関する短い会話や説明を読んで、概要や要点を理解できる。 ○ 英語学習を目的として書かれた記事やレポートを読んで、概要や要点を理解できる。	○ 公共の場所(店、駅など)において、自分の問題を説明し、解決することができる。 ○ 身近な話題や関心のある事柄について、まとまりのある内容を話すことができる。 ○ 関心のある分野のテーマに関する記事やレポート資料の概要や要点を説明することができる。 ○ 知識のある時事問題や社会問題について、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話すことができる。	○ 自分の経験や身近な事柄について、複数のパラグラフから成る説明文を書くことができる。 ○ 関心のある分野のテーマに関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができる。 ○ 関心のある分野のテーマについて、まとまりのある文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書くことができる。			
StageO						%	%
StageO						%	%
StageO						%	%
A2	○ 簡単なメッセージやアナウンスを聞いて、必要な情報を聞き取ることができる。 ○ 身近な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができる。 ○ 比較的ゆっくりはっきりと話されれば、身近な事柄に関する短い説明の要点を理解することができる。	○ 日常生活において身の回りにある短い平易なテキストから、必要な情報を読み取ることができる。 ○ 平易な英語で書かれた短い物語を読んで、あらすじを理解できる。 ○ 身近な話題に関して平易な英語で書かれた短い説明や手紙を読んで、概要や要点を理解できる。	○ 身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができる。 ○ 身近な話題や関心のある事柄について、簡単な説明をすることができる。 ○ 身近な話題について、自分の意見やその理由を簡単に話すことができる。	○ 自分が必要とする事柄について、短い簡単なメモやメッセージなどを書くことができる。 ○ 身近な事柄について、簡単な語句や表現を用いて、短い説明文を書くことができる。 ○ 聞いたたり読んだりした内容について、簡単な語句や表現を用いて、自分の意見や感想を書くことができる。			
StageO						%	%
StageO						%	%
StageO						%	%
A1	○ 相手や簡単な指示を聞いて理解することができる。 ○ 日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取ることができる。 ○ 比較的ゆっくりはっきりと話されれば、身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話や説明を、視覚情報などを参考にしながら理解することができる。	○ 日常生活において身の回りにある英語の中の語句や単純な文を理解することができる。 ○ 平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで、視覚情報などを参考にしながら、あらすじを理解することができる。 ○ 身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、視覚情報などを参考にしながら、概要を理解することができる。	○ 簡単な語句や文を用いて、自分について話すことができる。 ○ 日常生活において必要となる基本的な情報を伝えることができる。 ○ ごく身近な事柄や出来事について、事実、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて短く話すことができる。	○ 相手の発話を理解できない場合など、必要に応じて、聞き返したり意味を確認したりすることができる。 ○ 相手のサポート(ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をたてくれるなど)があれば、ごく身近な話題について、簡単な表現を使って質問応答をすることができる。	○ 自分に関するごく限られた情報を、簡単な語句や文を用いて書くことができる。 ○ ごく身近な事柄について、簡単な語句や文を用いて書くことができる。		
StageO						%	%
StageO						%	%
StageO						%	%

CEFRを共通尺度として使うことの意義（1）

社会ではCEFRで英語力を判断する環境が整いつつある

社会で行われる評価

C2	230
C1	180
B2	179 160
B1	159 140
A2	139 120
A1	119 100

CEFR

共通の尺度

同期

学校で行われる評価

生徒の学習や自己実現の幅を計画的・効率的・永続的に広げることができる。
(統一感の無い入試問題をよりどころとする必要がない)

~~入試~~

~~教科書~~

ケンブリッジ 英語検定	実用英語技能検定	GTEC Advanced	TEITS	TEAP	TEAP	TOEFL	TOEIC L&R/ TOEIC S&W												
<p>様式1 学校番号...) 静岡県立/〇〇市立/〇〇〇高等学校 平成29年度 学習到達目標 (リスト)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>聞くこと(Listening)</th> <th>読むこと(Reading)</th> <th>話すこと(Speaking)</th> <th>書くこと(Writing)</th> <th>総合的</th> <th>運用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table>								聞くこと(Listening)	読むこと(Reading)	話すこと(Speaking)	書くこと(Writing)	総合的	運用
聞くこと(Listening)	読むこと(Reading)	話すこと(Speaking)	書くこと(Writing)	総合的	運用														
...														

「CAN-DOリスト」を作成する目的

- 指導方法や評価方法の工夫・改善が容易になる。
- すべての子どもたちの英語力の水準を向上させることができる。
- グローバル社会に通用するより高度な英語力の習得を目指すことが可能になる。
- **小・中・高が連携した英語教育の実現も可能になる。**

三二演習
1

生徒に教えるとしたらどの順番で教えるのが適切と思いますか。

ア) 時制(現在形・過去形)
関係詞
助動詞
不定詞・動名詞
仮定法・分詞構文
時制(現在完了・過去完了)

イ) 時制(現在形・過去形)
仮定法・分詞構文
助動詞
時制(現在完了・過去完了)
不定詞・動名詞
関係詞

ウ) 時制(現在形・過去形)
助動詞
不定詞・動名詞
時制(現在完了・過去完了)
関係詞
仮定法・分詞構文

教師は文法についてある程度の
「共通参照枠」を有している。

(Common Framework of Reference)

組織の中で同じように考えることができる

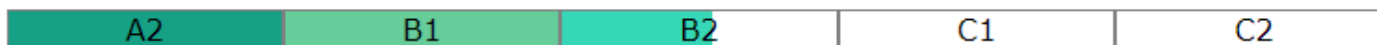
TEXT ANALYZER

BY
ROADTOGRAMMAR.COM

Ad closed by Google

Stop seeing this ad

Why this ad? ⓘ



CEFR Level: CEF Level B2

(Intermediate)
IELTS Level 5-6

Suggested vocabulary:

extremely
cables
km
diameter
cable
centrifugal

number of words: 86
average sentence length: 12
average word length: 4.5
word complexity: 1628

DEFINITIONS

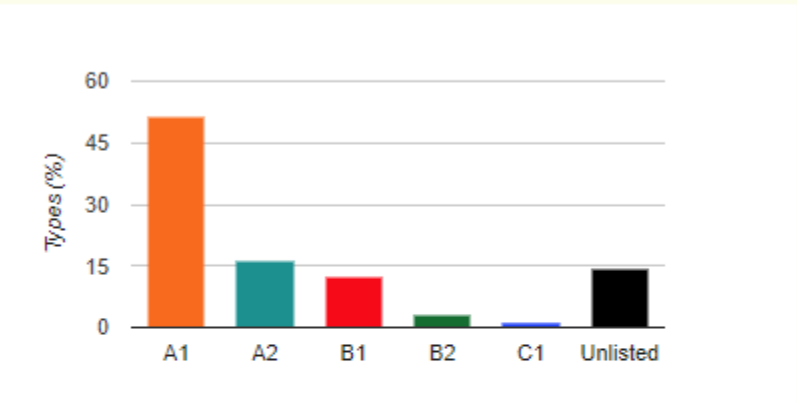
NEW TEXT





textinspector.com Text Inspector

Word List	Types	Tokens
A1	29 (51.79%)	50 (60.24%)
A2	9 (16.07%)	11 (13.25%)
B1	7 (12.50%)	9 (10.84%)
B2	2 (3.57%)	2 (2.41%)
C1	1 (1.79%)	1 (1.20%)
Unlisted	8 (14.29%)	10 (12.05%)



1 CAN-DOリストの活用に向けての取組

<p>A1 29 types / 50 tokens 51.79% / 60.24%</p> <p>(Hide words)</p> <p>a (1) about (2) as (4) be (3) been (1) biggest (1) eight (1) for (1) had (1) has (1) is (1) kind (1) long (4) more (1) needs (1) of (2) problem (1) than (1)</p>	<p>A2 9 types / 11 tokens 16.07% / 13.25%</p> <p>(Hide words)</p> <p>along (1) break (1) easily (1) enough (1) must (1) no one (1) space (2) strong (2) such (1)</p>	<p>B1 7 types / 9 tokens 12.50% / 10.84%</p> <p>(Hide words)</p> <p>cable (3) cables (1) consider (1) development (1) extremely (1) material (1) therefore (1)</p>
		<p>B2 2 types / 2 tokens 3.57% / 2.41%</p> <p>(Hide words)</p> <p>force (1) steel (1)</p>
	<p>C1 1 types / 1 tokens 1.79% / 1.20%</p> <p>(Hide words)</p> <p>knew what</p>	<p>Unlisted 8 types / 10 tokens 14.29% / 12.05%</p> <p>(Hide words)</p> <p>(1) (Amend) 1990s (1) (Amend)</p>

教師は文法以外について「共通参照枠」
を有していないのでは？ (Common Framework of Reference)

組織の中で同じように考えることができない

would (1)

CONTENTS

自治体の役割：英語教育改善のための意識改革

1 CAN-DOリストの活用に向けての取組

2 共通参照枠に基づいた英語教育改善

ア 共通参照枠の意識化(静岡県が考えるCEFR)

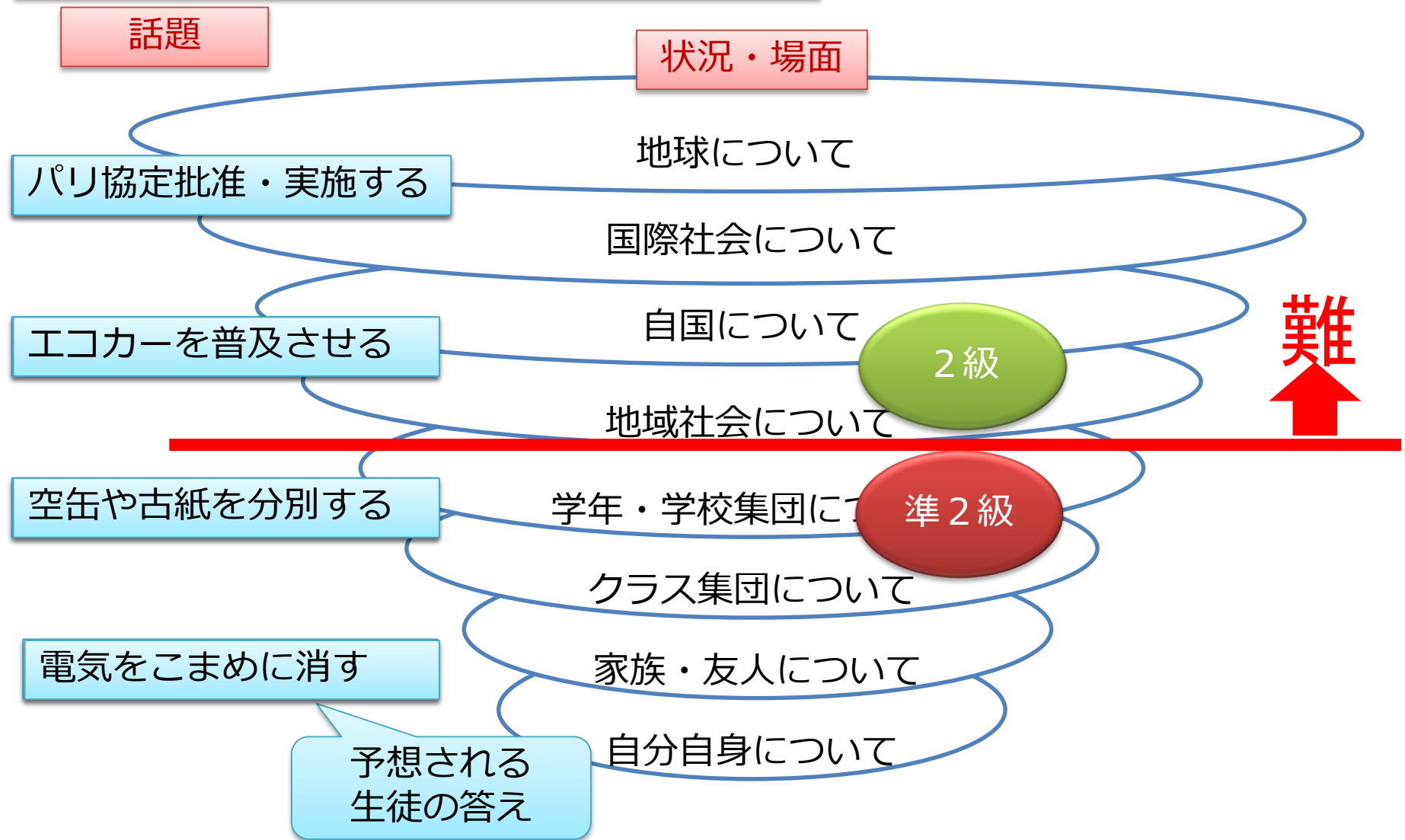
イ 授業づくりの質的転換への意識化

3 まとめ

受信技能(Reading)の共通参照枠について考える

例) 環境保全についてできることは何ですか。

※教室での授業を振り返って考えてみる



受信技能(Reading)の共通参照枠について考える

例) 環境保全についてできることは何ですか。

※教室での授業を振り返って考えてみる

話題

状況・場面

パリ協定批准・実施する

地球について

国際社会について

B2

エコカーを普及させる

自国について

地域社会について

2級

B1

難
↑

空缶や古紙を分別する

学年・学校集団について

クラス集団について

準2級

A2

電気をこまめに消す

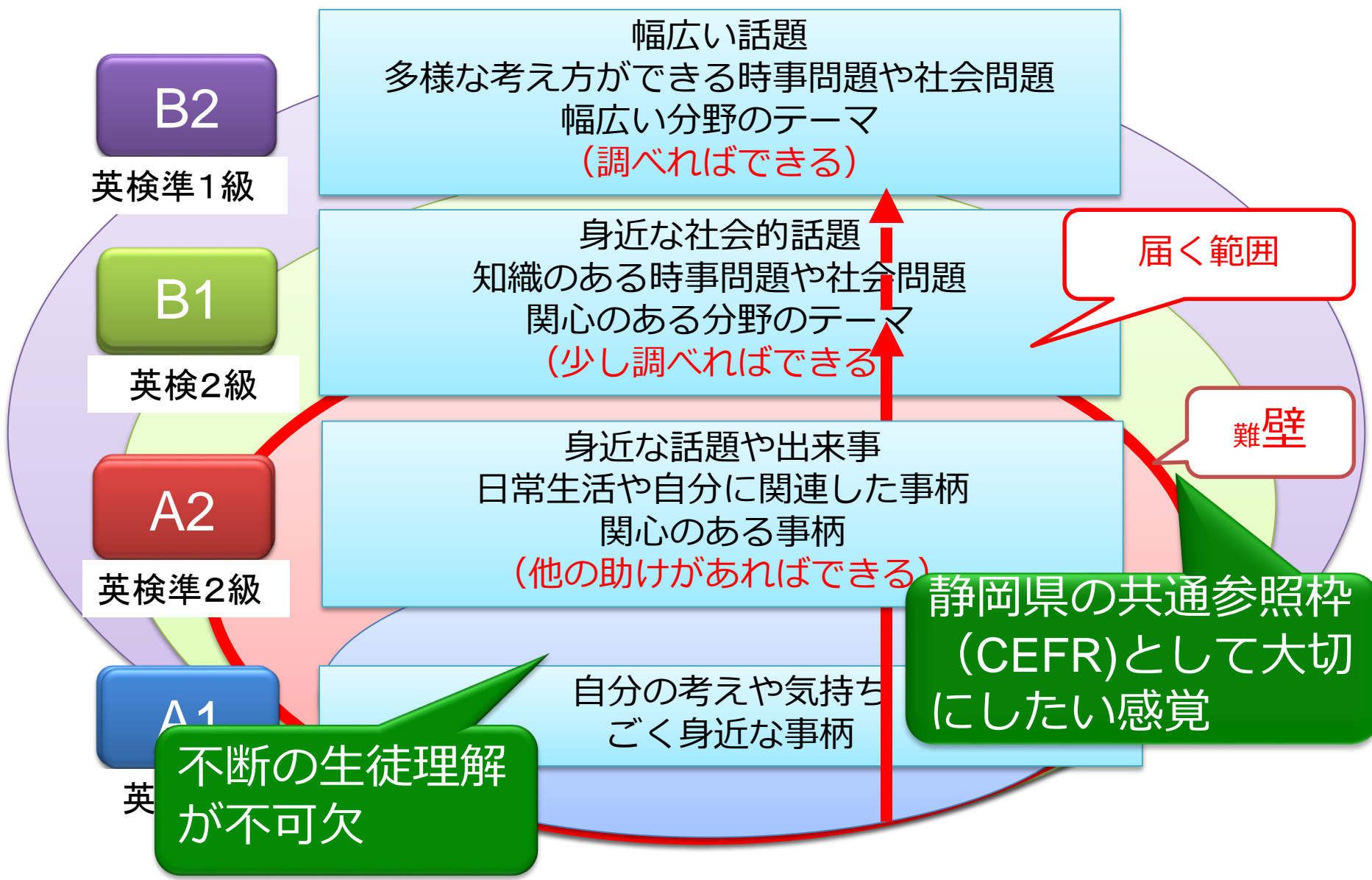
家族・友人について

自分自身について

A1

予想される
生徒の答え

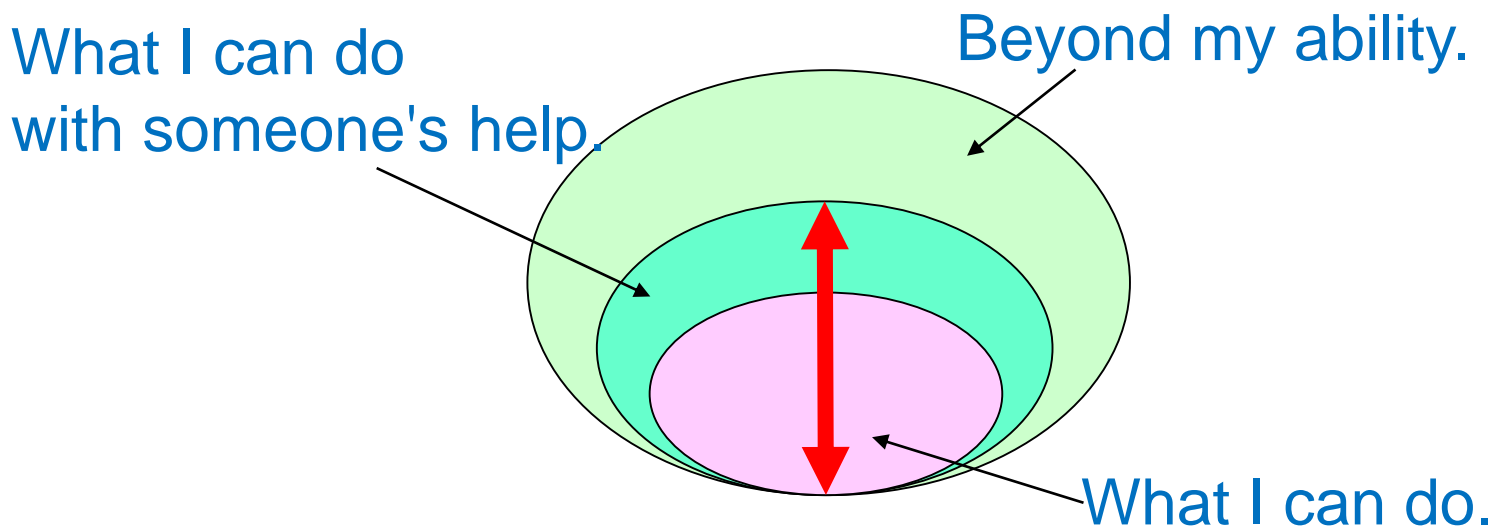
受信技能(Reading)の共通参照枠について考える



● *Comprehensible input* 「 $i + 1$ 」 Krashen (1977)

● **ZPD** (The Zone of Proximal Development: 最近接発達領域)
Vygotksy (1978)

= the difference between what a learner can do without help and what he or she can do with help.



CONTENTS

自治体の役割：英語教育改善のための意識改革

1 CAN-DOリストの活用に向けての取組

2 共通参照枠に基づいた英語教育改善

ア 共通参照枠の意識化（静岡県が考えるCEFR）

イ 授業づくりの質的転換への意識化

3 まとめ

英語教育改善のための意識改革

「主体的・対話的で深い学び」

「わかる」から「できる」へ

授業づくりの考え方を変える

授業づくりの質的転換

静岡県総合教育センターの取組

「主体的・対話的で深い学び」の実現

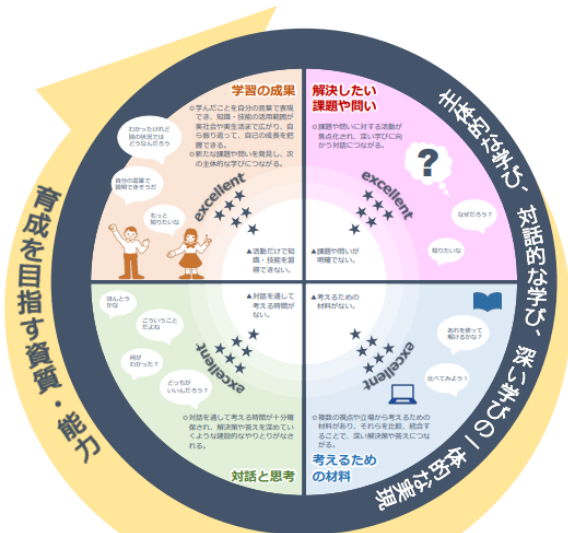
「主体的・対話的で深い学び」の実現

「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善

平成29年度版

<小学校、中学校、高等学校、特別支援学校共通>

新しい時代を切り拓く資質・能力を引き出し、高める



子供たちが「どのように学ぶか」に焦点を当て、
●解決したい課題や問い ●考えるための材料 ●対話と思考 ●学習の成果
を意識して授業を設計しましょう！

上の図は、「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善を図式化したものです。図の中の子供たちのつぶやきは、学びの過程で通ってきた手必え（学びの実感）を表現しています。子供たち一人一人の可能性を伸ばし、新しい時代に求められる資質・能力を確実に育成していくためには、主体的な学び、対話的な学び、深い学びの過程を一体として実現することが必要です。そうした学びの過程を実現するための方法として、「解決したい課題や問い」、「考えるための材料」、「対話と思考」、「学習の成果」を意識しながら、授業設計することを提案します。目指す授業設計は「excellent」です。詳細はリーフレットの中をご覧ください。

静岡県総合教育センター研究報告資料

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業設計診断

次の表は、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、「アクティブ・ラーニング」の視点から授業設計を診断するものです。各項目とも「★」から「excellent」に向かって確認してください。子供たちが喜ぶ得た概念や思考力等を、手段として活用・発展させながら学習に取り組み、その中で資質・能力の活用と育成が繰り返されるような指導の創意工夫を促していくことが大切です。各教科等の特徴に応じた物事を捉える視点や考え方（見方・考え方）を働かせることが、学びの「深まり」の鍵になります。また、子供一人一人の興味や関心、発達や学習の課題等を踏まえ、それぞれの個性に応じた学びを引き出し、一人一人の資質・能力を高めていくことが重要です。授業や単元の取組に子供の「主体的・対話的で深い学び」の過程が実現する授業設計を意図しましょう。

項目	★	★★	★★★	excellent
解決したい課題や問い	<p>△課題や問いが明確ではない。</p>	<p>△課題や問いはあるが、解決に對話が必要としない。</p>	<p>△課題や問いがあり、解決に對話が必要である。</p>	<p>○課題や問いに対する活動が焦点化され、深い学びに向かう対話につながる。</p>
考えるための材料	<p>△考えるための材料は少ない。</p>	<p>△考えるための材料は、資料、図表、動画など複数の視点から準備している。</p>	<p>△考えるための材料は、資料、図表、動画など複数の視点から準備している。</p>	<p>○複数の視点や立場が</p>
対話と思考	<p>△対話を通して時間が足りない。</p>	<p>△対話を通して時間が足りない。問題とは、資料、図表、動画など複数の視点から準備している。</p>	<p>○対話を通して考える時間が十分確保され、解決策や答えを深める。</p>	<p>○対話を通して考える時間が十分確保され、解決策や答えを深める。</p>
学習の成果	<p>△活動だけで知識・技能を習得できない。</p>	<p>△知識・技能の活用範囲が狭い形の習得にとどまっている。</p>	<p>△知識・技能の活用範囲が広がり、振り返りを通して、自己の成長を把握できる。</p>	<p>○新たな課題や問いを発見し、次の主体的な学びにつながる。</p>

リーフレット

授業づくりのための思考ツール

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業設計診断

次の表は、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、「アクティブ・ラーニング」の視点から授業設計を診断するものです。各項目とも「★」から「excellent」に向かって確認してください。子供たちが習得した概念や思考力等を、手段として活用・発揮させながら学習に取り組み、その中で資質・能力の活用と育成が繰り返されるような指導の創意工夫を促していくことが大切です。各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（見方・考え方）を働かせることが、学びの「深まり」の鍵になります。また、子供一人一人の興味や関心、発達や学習の課題等を踏まえ、それぞれの個性に応じた学びを引き出し、一人一人の資質・能力を高めていくことが重要です。授業や単元の流れに子供の「主体的・対話的で深い学び」の過程が実現する授業設計を意識しましょう。

項目	★	★★	★★★	excellent
解決したい課題や問い			○課題や問いがあり、解決に対話が必要である。	○課題や問いに対する活動が焦点化され、深い学びに向かう対話につながる。
		△課題や問いはあるが、解決に対話が必要と	△課題や問いに対する活動の幅が広すぎて	

「主体的・対話的で深い学び」の実現

★星の数が多いほど
良くできた授業設計

項目	★	★★	★★★	excellent
解決したい課題や問い	▲課題や問いが明確ではない。 	△課題や問いはあるが、解決に対話が必要としない。	○課題や問いがあり、解決に対話が必要である。 △課題や問いに対する活動の幅が広すぎて、活動が焦点化されにくい。	○課題や問いに対する活動が焦点化され、深い学びに向かう対話につながる。 なぜだろう？ 知りたいな

▲活動だけで知識・技能を習得できない。 	△知識・技能の活用範囲が狭い形の習得にとどまっている。	○知識・技能の活用範囲が広がり、振り返りを通して、自己の成長を把握できる。 △課題や問いを解決することで満足し、そこに新たな課題や問いが生まれにくい。	○新たな課題や問いを発見し、次の主体的な学びにつながる。
-------------------------	-----------------------------	--	----------------------------------

研究協力者

東京大学 高大接続研究開発センター 教授
大学発教育支援コンソーシアム推進機構 (CoREF)
文部科学省 国立教育政策研究所 フェロー
白水 始 先生

聖心女子大学
文学部教育学科
教授
益川 弘如 先生

授業実践

例) 1枚ポートフォリオ

例) 1枚ポートフォリオ

Unit X HR NO NAME

解決したい課題や問い

自分の考え (当初)

TASK 3

Positive	Negative

TASK 1

before

TASK 4

TASK

前後比較をして
知識の量と深まりをみる

TASK

after

上手く
いかない
ことが多い

【課題 1】

授業設計の要となる「解決
したい課題や問い」を上手
く作ることができない

大きな問い (再)

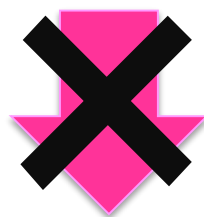
自分の考え (学習の成果)

検定教科書

「わかる」教材として 素晴らしい

生徒に伝えたいメッセージがある

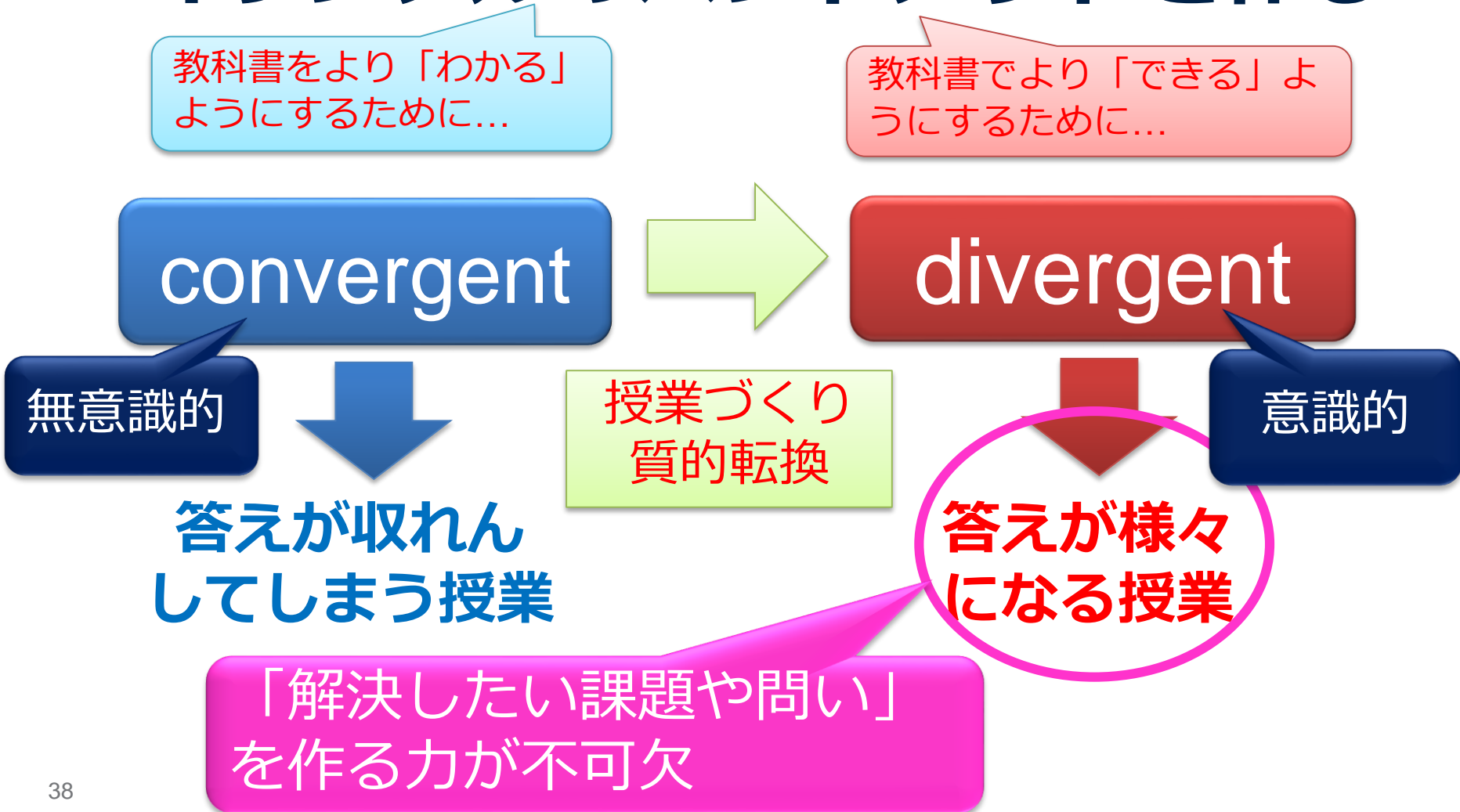
「知って楽しい」受容トピック
(興味深い)



「対話して楽しい」産出トピック
(生徒にとって興味深い)

検定教科書で教える

オリジナルのハンドアウトを作る

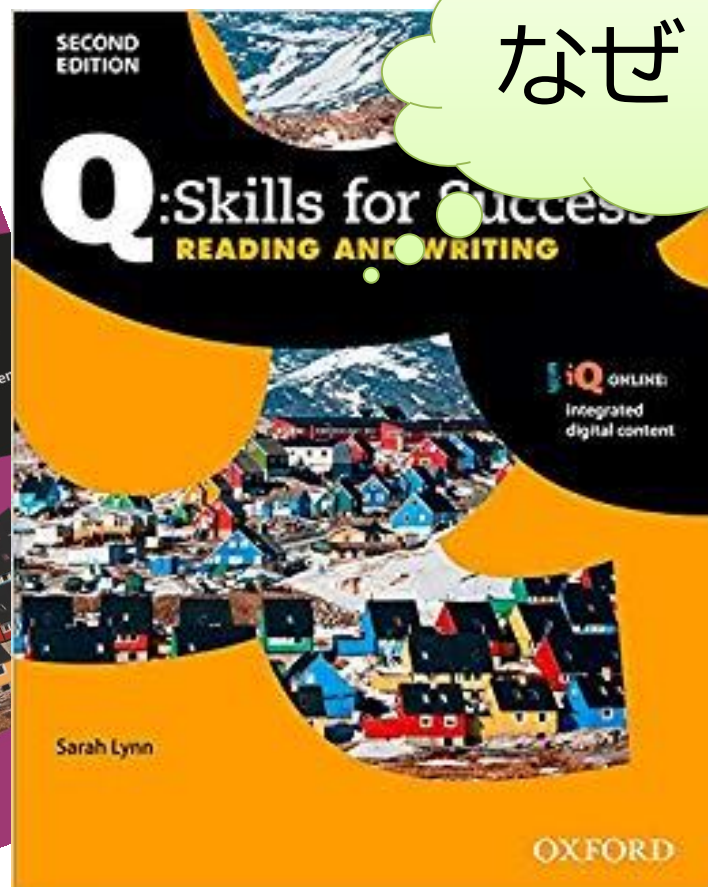


単元や授業を貫く

解決したい課題や問い

頑張ってみるものの
なかなか作れない

なぜ？



単元や授業を貫く
解決したい課題や問い
UNIT QUESTION

CEFRに基づいて

The question-centered approach provides a critical thinking framework for each unit.

各ユニットの冒頭で核となる質問を掲げかけ、様々な角度から考察し、批判的思考力を養えるよう構成されています。

LISTENING AND SPEAKING				
Intro	Unit 1	What are you interested in?	Unit 1	How can you find a good job?
	Unit 2	What makes a good school?	Unit 2	Why do we study other cultures?
	Unit 3	How do you choose your food?	Unit 3	What is the best kind of vacation?
	Unit 4	What makes something fun?	Unit 4	Who makes you laugh?
	Unit 5	What makes a good home?	Unit 5	Why do we enjoy sports?
	Unit 6	What do you do to stay healthy?	Unit 6	When is honesty important?
	Unit 7	What makes a city special?	Unit 7	Is it ever too late to change?
	Unit 8	What are the most important events in someone's life?	Unit 8	When is it good to be afraid?
Level 2	Unit 1	What are current trends in architecture?	Unit 1	Are first impressions accurate?
	Unit 2	How can colors be useful?	Unit 2	What's more important: taste or nutrition?
	Unit 3	Why are good manners important?	Unit 3	Is change good or bad?
	Unit 4	How can games compare to real life?	Unit 4	How can advertisers change our behavior?
	Unit 5	What does it mean to be part of a family?	Unit 5	What risks are good to take?
	Unit 6	Why do things yourself?	Unit 6	Are we responsible for...
Level 3	Unit 1	How can you find a good job?	Unit 1	How do you find a good job?
	Unit 2	Why do we study other cultures?	Unit 2	Why do we study other cultures?
	Unit 3	What is the best kind of vacation?	Unit 3	What is the best kind of vacation?
	Unit 4	Who makes you laugh?	Unit 4	Who makes you laugh?
	Unit 5	Why do we enjoy sports?	Unit 5	Why do we enjoy sports?
	Unit 6	When is honesty important?	Unit 6	When is honesty important?

READING AND WRITING				
Intro	Unit 1	What kind of person are you?	Unit 1	What is a good job?
	Unit 2	Do students spend too much time in school?	Unit 2	Why do people immigrate to other countries?
	Unit 3	When do we eat special foods?	Unit 3	Why is vacation important?
	Unit 4	How do you have fun?	Unit 4	What makes you laugh?
	Unit 5	What is your favorite room?	Unit 5	How do sports make you feel?
	Unit 6	How can you change an unhealthy habit?	Unit 6	How do you feel about cities?
	Unit 7	Why do people live in cities?	Unit 7	How are children and adults different?
	Unit 8	What events change our lives?	Unit 8	What are you afraid of?
Level 2	Unit 1	Why does something become popular?	Unit 1	How do you make a good first impression?
	Unit 2	How do colors affect the way we feel?	Unit 2	What makes food taste good?
	Unit 3	What does it mean to be polite?	Unit 3	How has technology affected our lives?
	Unit 4	What makes a competition unfair?	Unit 4	Does advertising help or harm us?
	Unit 5	What makes a family business successful?	Unit 5	Why do people take risks?
	Unit 6	Do you prefer to get help from a person or a machine?	Unit 6	Why do people help each other?
	Unit 7	Is it better to save what you have or buy new things?	Unit 7	How can a small amount of money make a big difference?
	Unit 8	How can we prevent diseases?	Unit 8	What does it take to be successful?
Level 3	Unit 1	What makes someone admirable?	Unit 1	What happens when a language disappears?
	Unit 2	What makes you want to buy something?	Unit 2	What is the difference between work and fun?
	Unit 3	What important lessons do we learn as children?	Unit 3	How well does a picture illustrate the truth?
	Unit 4	How important is it to write by hand?	Unit 4	Why is global cooperation important?
	Unit 5	Should science influence what we eat?	Unit 5	What makes a public place appealing?
	Unit 6	Does school prepare you for work?	Unit 6	How can we turn trash into treasure?
	Unit 7	Is discovery always a good thing?	Unit 7	Why do people want to change who they are?
	Unit 8	Why is it important to play?	Unit 8	What energizes people?
Level 5	Unit 1	What happens when a language disappears?	Unit 1	What happens when a language disappears?
	Unit 2	What is the difference between work and fun?	Unit 2	What is the difference between work and fun?
	Unit 3	How well does a picture illustrate the truth?	Unit 3	How well does a picture illustrate the truth?
	Unit 4	Why is global cooperation important?	Unit 4	Why is global cooperation important?
	Unit 5	What makes a public place appealing?	Unit 5	What makes a public place appealing?
	Unit 6	How can we turn trash into treasure?	Unit 6	How can we turn trash into treasure?
	Unit 7	Why do people want to change who they are?	Unit 7	Why do people want to change who they are?
	Unit 8	What energizes people?	Unit 8	What energizes people?

「思わず考えたくなる」問い
「対話してみたいくなる」問い
が用意されている

Authentic BBC and CBS video adds a new dimension to every unit and provides an engaging springboard for students to think critically.

BBCとCBSのビデオが各ユニットに収録され、学習内容を多角的に関連付け、批判的に考察するきっかけを与えます。

Online Writing Tutor

Q develops critical thinking and creates academic success.

Sustainable Progress

Progress is key to student motivation. Edition sets clear goals for students in... with visual clues to highlight progress.

進歩を促すことは、生徒のやる気を維持する鍵です。Q版では各ユニットの冒頭で別冊学習目標のページで学習達成度合いを視覚的に示します。

Unit objectives at the start of the unit focus students on their learning goals. 各ユニットの冒頭でユニット毎の目標を明示しています。

Progress bar indicates student progression through the unit. 各ページにそのユニットの到達目標までの進捗具合をプログレスバーで表示しています。

Reflect activity highlights student progress and achievement. "REFLECT" アクティビティを通して生徒の習熟具合と到達度を振り返ります。

Track Your Success allows students to evaluate their progress at the end of the unit. ユニットの最後に追加された"TRACK YOUR SUCCESS"のセクションでは、学習内容の理解度を生徒自身が確認できます。

Think critically. Succeed academically.

単元や授業を貫く

解決したい課題や問い

UNIT QUESTION

CEFRに基づいて



What events change our lives?

Why is vacation important?

Why are good manners important?

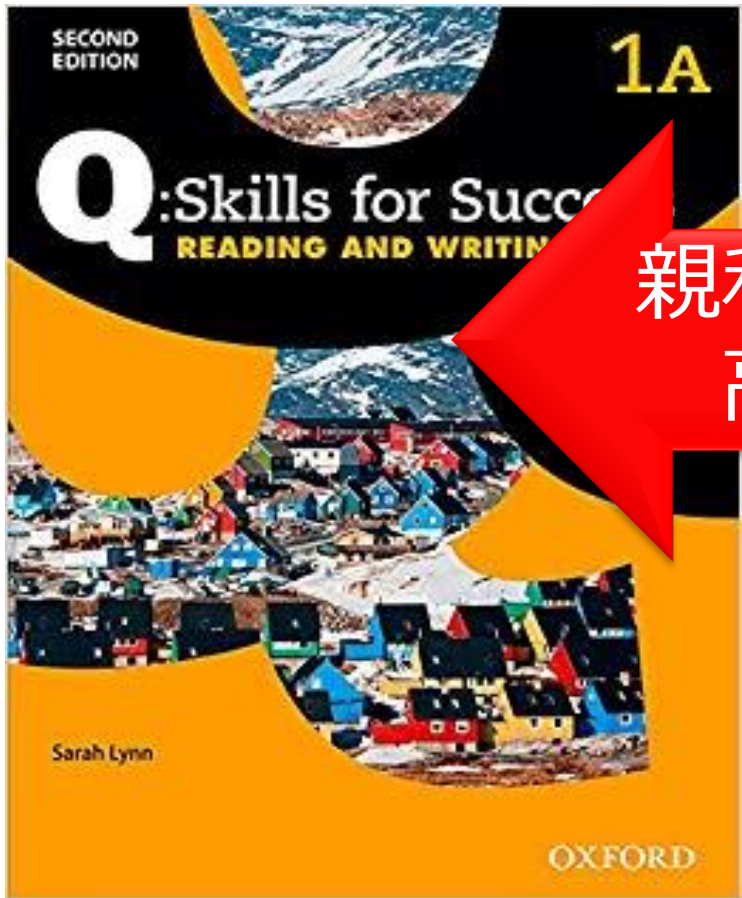
Are first impressions accurate?

Qシリーズ活用理由 1

問いを作るのが上手
になってくる
(意識化・慣れ)

「解決したい課題や問い」
についての理解を得ること
ができる (練習ができる)

Critical thinking
Logical thinking



「主体的・対話的で深い学び」

授業設計 4 項目

＜小学校、中学校、高等学校、特別支援学校共通＞

新しい時代を切り拓く資質・能力を引き出し、高める

単元や授業を貫く
解決したい課題や問い

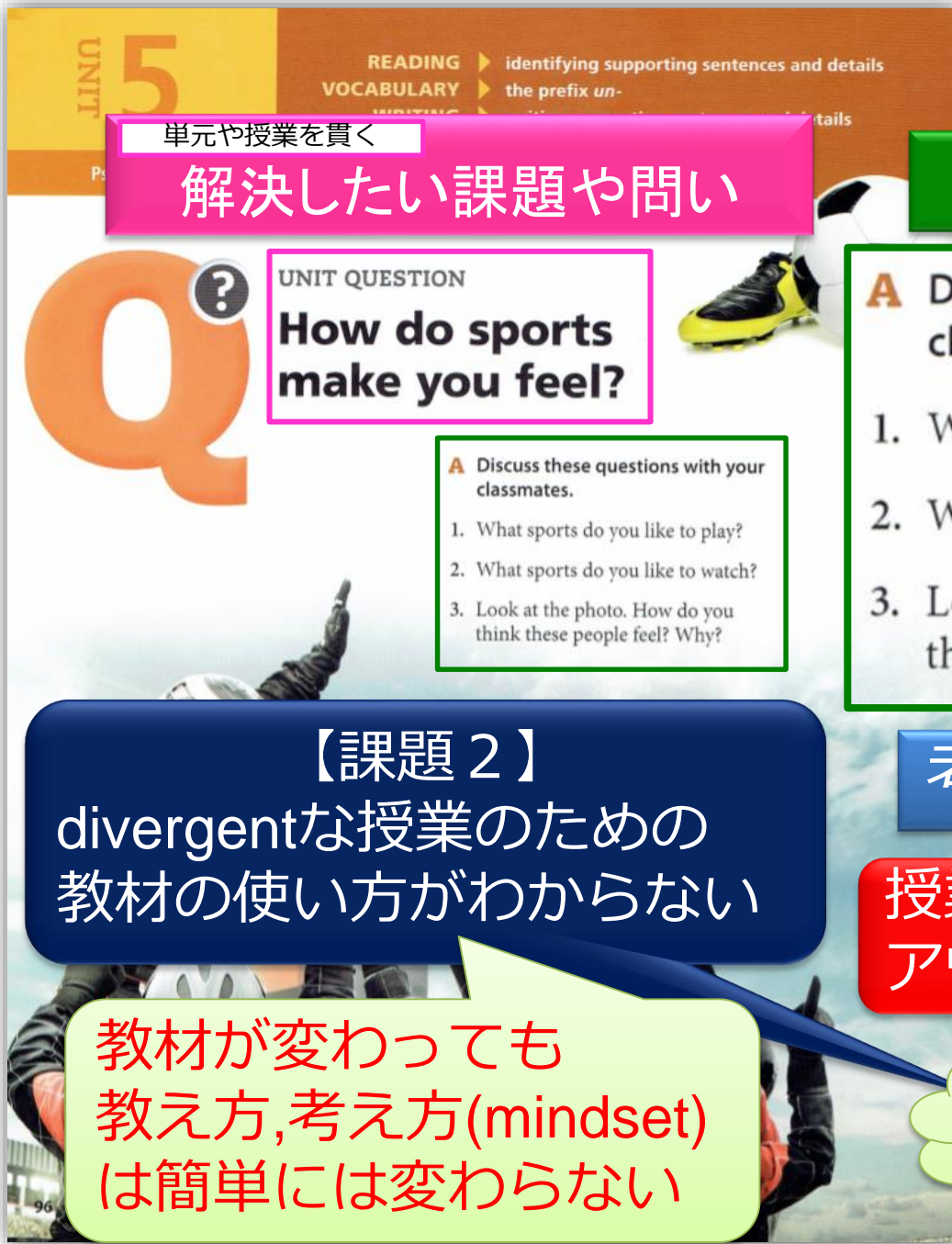
考えるための材料

対話と思考

学習の成果

●解決したい課題や問い ●考えるための材料 ●対話と思考 ●学習の成果
を意識して授業を設計しましょう！

上の図は、「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善を図式化したものです。図の中の子どもたちのつぶやきは、学びの過程で湧き上がってくる手応え（学びの実感）を表現しています。子供たち一人一人の可能性を伸ばし、新しい時代に求められる資質・能力を確実に育成していくためには、主体的な学び、対話的な学び、深い学びの過程を一体として実現する必要があります。そうした学びの過程を実現する一つの方法として、「解決したい課題や問い」、「考えるための材料」、「対話と思考」、「学習の成果」を意識しながら、授業設計することを提案します。目指す授業設計はexcellentです。詳細はリーフレットの中をご覧ください。



単元や授業を貫く
解決したい課題や問い

対話と思考

Q UNIT QUESTION
How do sports make you feel?

A Discuss these questions with your classmates.

1. What sports do you like to play?
2. What sports do you like to watch?
3. Look at the photo. How do you think these people feel? Why?

A Discuss these questions with your classmates.

1. What sports do you like to play?
2. What sports do you like to watch?
3. Look at the photo. How do you think these people feel? Why?

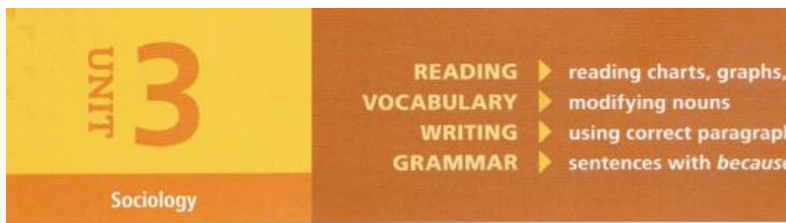
【課題 2】
divergentな授業のための
教材の使い方がわからない

考えるための材料

授業準備においてハンド
アウトを作る必要がない

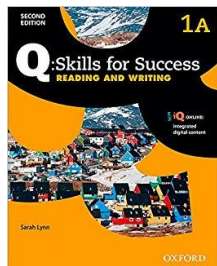
教材が変わっても
教え方, 考え方 (mindset)
は簡単には変わらない

でも作って
しまう...



p.61

What is your idea of a great vacation?



A1 High

UNIT QUESTION
? Why is vacation important?

CEFRに基づいて

Where do you want to go?

What do you want to do?

Follow-up question

Recasting

ハンドアウトの作成に重点が置かれ意識化されていなかった

Qシリーズ活用理由2

divergentな授業に求められる支援についての理解を得ることができる
(練習ができる)

divergentな授業に 求められる支援

静岡県のCEFR
感覚に基づいて

Oh, really?
What do you want
to do in the space?

Do you want to go
to the space?

Why?

Do you think it's
dangerous to go to
the space?

Which do you think we
should explore,
the space or the see?
Debate!

Do we have to
explore the space?

新学習指導要領

話すこと【やり取り】（目標）

英語コミュニケーションⅠ

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、**多くの支援を活用すれば**、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。

英語コミュニケーションⅡ

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、**一定の支援を活用すれば**、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。

英語コミュニケーションⅢ

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、**支援をほとんど活用しなくても**、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させることができるようにする。

CONTENTS

自治体の役割：英語教育改善のための意識改革

1 CAN-DOリストの活用に向けての取組

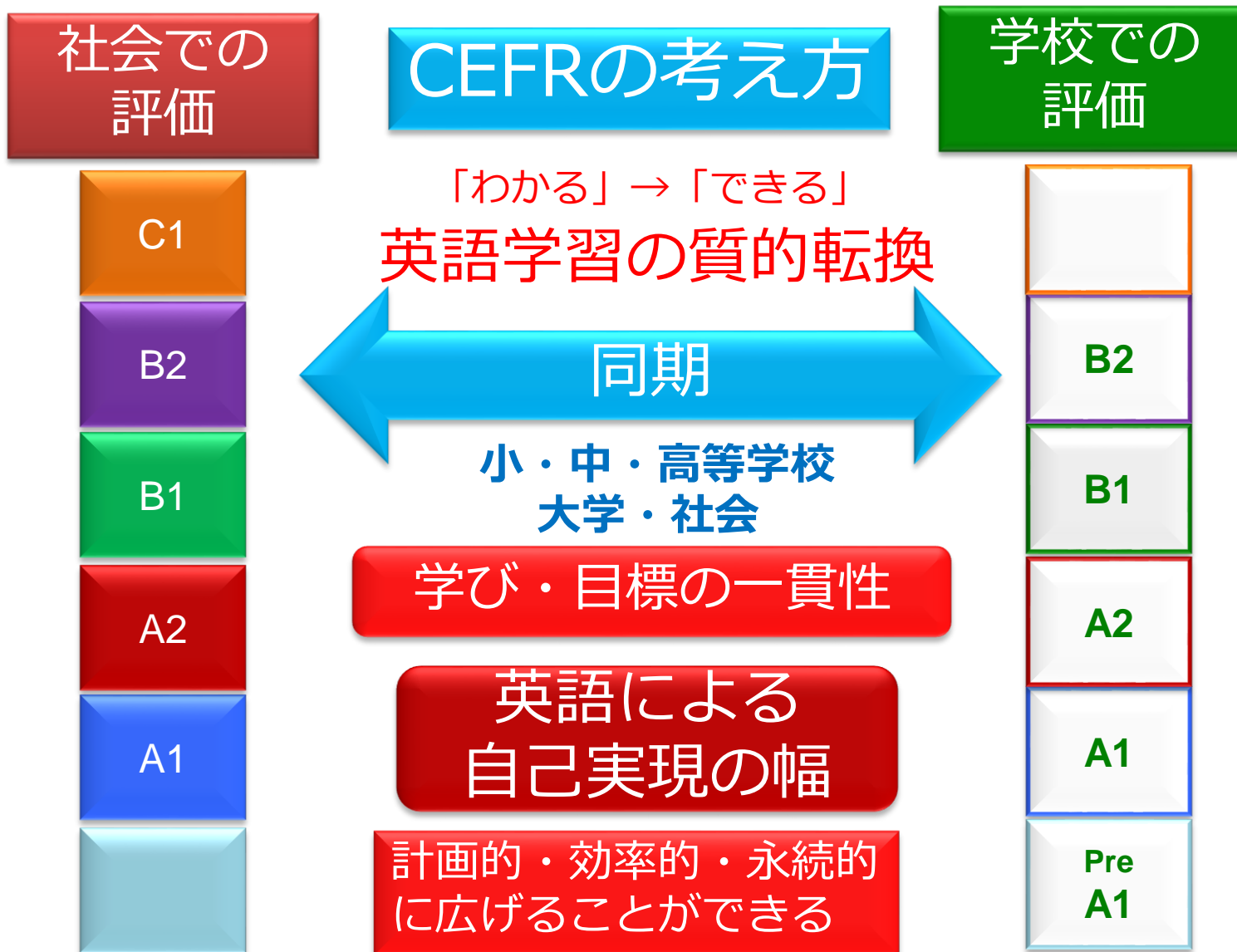
2 共通参照枠に基づいた英語教育改善

ア 共通参照枠の意識化（静岡県が考えるCEFR）

イ 授業づくりの質的転換への意識化

3 まとめ

生徒に求められる英語力



授業づくりの質的転換

教師に求められる力1

「考えたくなる」
「話したくなる」
問いの作成力

単元や授業を貫く
解決したい課題や問い

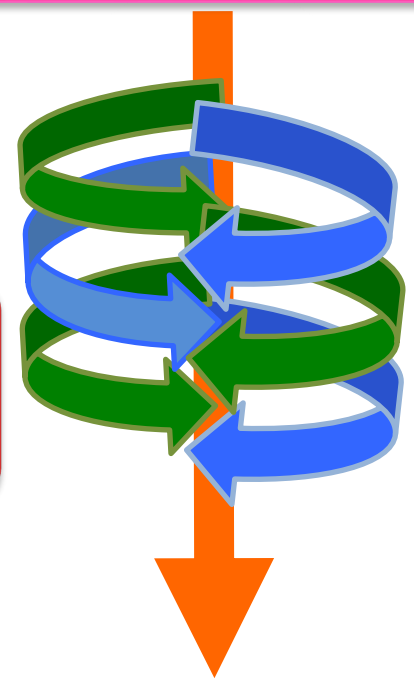
考えるための材料

教師に求められる力2

divergentな授業に求められる支援の実行力

生徒の反応・応答を
シュミレートする

**不断の生徒理解
が不可欠**



対話と思考

推論発問・評価発問

Follow-up question

Recasting

Positive feedback

学習の成果

Finally...

Collaborativeに
授業づくりの質的改善を図る

研究授業（授業参観）

生徒を見る

授業設計
4項目

「できているか」

「できるようになっているか」

「上質 な教材」の活用を通して
divergent な授業実践の経験値を高め

**「わかる」 & 「できる」生徒を
All Japanで育成しましょう!**

OXFORD
UNIVERSITY PRESS